

## 2009 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第5戦

### 鈴鹿4時間耐久ロードレース モリワキクラブ レースレポート

ST600クラス #19 藤島 翔太選手/田原 啓至選手 予選:3番手/決勝:優勝

予選 第1ライダー田原選手: 2 min20sec991 / 第2ライダー藤島選手: 2 min19sec746 /

予選総合 4 min 40sec737 / 決勝 BEST: 2 min 20sec102

今シーズンは会社として新たなプロジェクトをスタートさせることもあり、国内でのロードレース活動を休止しているモリワキレーシング。しかし今回、将来を担うライダー育成の場である鈴鹿4時間耐久ロードレースには、モリワキクラブとして参戦することとなった。

ライダーは、昨年のこのレースで予選1位を獲得した藤島翔太選手と、若手・田原啓至選手のペアリング。この耐久レースは、レースキャリアの浅いライダーで構成するため、さまざまなアクシデントが発生しやすい非常に難しいレースだ。若いチームをまとめるのは、モリワキエンジニアリングの新たなプロジェクトの開発ライダーを務めている森脇尚護。

金曜日に行われた予選は、最初に第2ライダー、その後に第1ライダーのセッションとなる。第2ライダーの藤島選手は2分19秒746をマークし、組2番手につける上々の滑り出しとなった。次の予選では、第1ライダーの田原選手が2分20秒991で組5番手に付けた。二人のタイムを合算してスターティンググリッドを決めるためこの結果、トータルタイム4分40秒737で3番手からスタートすることとなった。

九州や山口では大雨が降り、その影響が心配されたが、決勝日は曇り空。しかしスタート時間が近付くにつれ、雲が薄くなり、太陽がサーキットを照り付ける中でレースは行われることとなった。

ル・マン式スタイルでレースがスタート。スタートライダーを務める藤島はマシンに駆け寄るとうまいスタートを切り、トップで1コーナーへ飛び込んだ。

藤島はレースをリードし、トップを快走する。タイムも2分20秒台で安定。理想的な序盤の展開となった。6周目、ゼッケン73が藤島をパスしてトップに出るが、藤島は焦ることなく、安定したタイムでラップを刻む。さらに背後からゼッケン10が2分20秒前半で追い上げ、藤島はゼッケン73のマシンをパスし、7周目にトップへ。藤島は16周し、予定通りピットインしてきた。今年はレギュレーションが変わり、ライダー交代後は最低でも16周走行することが義務付けられており、しかも連続走行は18周までとされている。このためにモリワキクラブは16周でピットインし、ライダーの負担をできるだけかけずに4時間を走りきる作戦を採った。スムーズにピット作業をこなしたモリワキクラブのバックアップもあり、19周目にはライダー交代した田原がトップに立つ。田原も安定して2分21秒から22秒台でラップを重ね、トップをキープ。2位に7秒の差を付け、トップを維持したまま33周目にピットへ戻ってきた。ライダー交代した藤島は快調に周回を重ね、2位との差を徐々に広げて、予定通り49周目にピットへ戻ってきた。ライダー交代した田原がコースに戻ったとき、2位のゼッケン73との差は25秒に広がっていた。2分23秒から25秒で走る田原に対し、2位のゼッケン73は22秒台でラップ。このため、その差は58周目に12秒まで縮まっていた。この週のシケイン入り口で、田原は前に現れたバックマーカーをインからパス。狙い通り前に出たのだが、立ち上がりのラインが厳しくなったことから、やや強引にマシンをさらにインに向けようとした瞬間、フロントタイヤのグリップを失い、転倒してしまった。スピードが大きく落ちる場所での転倒でもあったことから、田原は機転を利かし、マシンの損傷を最小限に抑えようと体をマシンと地面の間に入れた。このために大きな損傷もなく、田原は急いでマシンを起こすとエンジンを掛け、レーシングスピードに戻していく。転倒している横を駆け抜けていったゼッケン73との差は5秒ほど。ところが64周目、トップを走っていたゼッケン73がシケイン立ち上がりで転倒。田原は再びトップに立つこととなった。そうしてトップで65周目にピットイン。ゼッケン19のマシンを藤島に預ける。

2位を走っていたマシンが転倒したことで、藤島と、2位に浮上したマシンとの差は32秒まで広がった。藤島は2分23秒台でラップ。2位のチームがルーティンのピットインをしたことから、その差は1分50秒まで広がる。そうして藤島は81周目にピットイン。ルーティンのガソリン給油、ライダー交代をして、田原がコースに戻っていく。2分26秒から27秒というペースでマシンをいたわりながら走る田原。無事に担当の16周をクリアし、97周目にピットへ戻ってくる。残り時間もあと10分を切っている。アウトラップを丁寧走る藤島がさらに走行を続け、99周目のダンロップコーナーを駆け上がるタイミングに13時となり、ちょうど4時間が経過。藤島はそのままメインスタンド前に戻り、トップでチェッカーを受けた。



## 2009 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第5戦 鈴鹿4時間耐久ロードレース モリワキクラブ レースレポート

ST600クラス #19 藤島 翔太選手/田原 啓至選手 予選:3番手/決勝:優勝

予選 第1ライダー田原選手: 2 min20sec991 / 第2ライダー藤島選手: 2 min19sec746 /

予選総合 4 min 40sec737 / 決勝 BEST: 2 min 20sec102

### 藤島翔太選手

「チェッカーを受けるまで気を抜かず、一生懸命に走りました。とにかくレースは自分のペースで走ることだけを考えていたので、序盤の展開も特に気になりませんでした。レース中はとにかく目の前のことにだけ集中するようにしていたのですが、チェッカーを受けたらその緊張が一気に抜け、ピットロードに戻ってきたら自分でも信じられないくらい涙が出てきてしまいました。これもすべて、応援していただいたスポンサーの皆さん、チームの皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。」

### 田原啓至選手

「転倒した瞬間は本当に焦りました。その瞬間、とにかくバイクを壊したらいけないと思って体をバイクの下に入れたのですが、バイクにトラブルが出なくて良かったです。その後はすぐにマシンを起こして、諦めず走ることだけに集中するよう心がけました。今年が初めての4耐なのですが、優勝できて本当に嬉しいです。サポートしていただいた皆さん、本当にありがとうございました。」

### 森脇尚護監督

「去年、モリワキクラブとしては大した結果も残すことができず、チームとしてどうすべきなのか見えなくなってきていたので一度解散しました。そこから、真剣に上を目指して頑張ろうという人間だけでモリワキクラブを構成し、09シーズンを戦うことにしたのです。毎日僕がトレーニングメニューを考え、それをみんなでしっかりとこなしてきました。メニューも従来のフィジカル、メンタル面に加え、脳科学からアプローチしたトレーニング、さらにはデータロガーによるデータをベースに、走行中のマシンはどんな状態で、それに対してライダーがどのような操作をすべきかという物理的な面からも考えるようなカリキュラムを組み、トレーニングしています。その効果が、今回のレースでは多少出たのかな、と思っています。耐久レースは不確定要素がたくさんあるので、それぞれが持っている力を発揮することだけ考え、周りに惑わされないこと、ライダーが走りに専念できるようなバックアップを、ということに重点を置いて考えました。決勝中の転倒も想定内ですし、ペース的な面に関しても事前に考えていたものでした。今回の結果を一つの糧に、さらに上を目指して彼らと一緒に頑張ります。今回もたくさんの方々に応援していただき、無事にレースを戦うことができました。本当にありがとうございました。」

### 森脇護監督

「毎日、厳しいトレーニングをしているのを見ていました。本当に彼らは努力していましたので、その頑張りが報われて良かったですね。マシンの仕上がりがよく、タイヤへの負担も少なかったのも、最後まで大きく消耗させずに走れたことも大きな収穫です。皆様の応援のおかげで、こうした成績を挙げることができました。ありがとうございました。そして藤島、田原両選手、よく頑張りました。おめでとう！」

